

加賀市橋立地区のまちづくりに関する研究 －西出家および木村家の整備を中心として－

指導教員 金沢工業大学 建築学部 教授 谷明彦
金沢美術工芸大学 環境デザイン専攻 鏑 隆弘教授

参加学生 野尻彰夫・岩永幸子・枝吉拓郎・鷺田達也・鳥越友香里・赤野恵介
山崎春奈・南出一樹・稲角明子・池上裕子・鈴木早恵子

1. 調査研究成果要約

本研究室の活動は、空地・空家の改善を中心としたハード面とソフト面の整備を行った。ハード面では西出家・木村家の庭園提案・計画・整備、西出家前の川沿い計画・整備を行った。今年度は基礎的な整 4 度行われたが、完成は来年度である。ソフト面は、木村家のギャラリー化に関する提案・計画・実施、橋立地区の土産物の開発を行った。木村家ギャラリー化における活動の結果、仮オープンに繋げることができた。

2. 調査研究の目的

本研究の目的は、重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建）に選定された加賀市橋立地区の地域活性化を目指し、継続的なまちづくりを進めることにより住民が自律的に活動できる環境を形成することである。

谷研究室では、平成 13 年より橋立地区の保存対象調査に関わり、調査結果を平成 14 年度から 17 年度まで研究としてまとめてきた。それらの成果によって、平成 17 年度に重伝建に選定されたのである。しかし、重伝建に選定後、橋立地区では建物改修等の部分的な整備が中心に行われており、まち並み全体を意識した整備が行われてこなかったのが現状である。

今後は、橋立地区が住宅地と観光地の両方を兼ね備えたまちという点を考慮し、住民が自律的にまちづくりを行える環境を形成していかなければならない。2 年目の活動として、拠点施設整備などのハード面と情報発信の充実化などのソフト面の両面を加賀市、住民と共同で実施する。

3. 調査研究の内容

研究方法

調査や活動から得た情報を基に、改善のための提案・計画を進め、実施に移す。

- ・文献調査：予備知識の習得、加賀橋立地区の歴史読解
- ・現地調査：集落の現状を把握、庭園整備、まち並み整備
- ・ヒアリング調査：地区の現状把握
- ・シャレット：専門家からの情報収集、学生によるまちづくり提案・計画

活動内容

本年度は次の活動を中心に地域活性化に向けて行った。活動内容は整備などのハード面と情報発信などのソフト面に分けることとする。

【ハード面】

- (Ⅰ) 西出家の庭園計画・実施
- (Ⅱ) 西出家前の川沿い計画・整備
- (Ⅲ) 木村家の庭園提案・計画・整備

【ソフト面】

- (i) HP による情報発信の改善
- (ii) 木村家ギャラリー化の提案・計画・実施
- (iii) 土産物の提案

4. 調査研究の成果

【ハード面】

(Ⅰ) 西出家の庭園計画・整備

昨年度までに金沢美術工芸大学（以下、美大）と連携してまちづくりを行う仕組みが作られ、今年度も共同で活動を進めた。まず、今年度の活動としては、庭園計画の決定が急がれたため、シャレットを月に1度のペースで定期的に行いデザインを決定した。しかし、敷地の大きさが不正確であったため測量後、計画案の図面化をすることとなった。そして、図面化した計画を実施するために敷地内整備を住民と協働で進め、計4回行うことができた。このような整備を定期的に行うことにより、住民との信頼関係の構築にもつながり、薄暗いイメージのあった西出家周辺の雰囲気も改善された。



図1 第1回整備



図2 第2回整備



図3 第3回整備



図4 第4回整備

(Ⅱ) 川沿い（西出家前）計画・整備

西出家前にはホタルも生息する自然豊かな水路が通っている。しかし、西出家裏の遊歩道工事により、水路沿いに生えるリュウノヒゲの減少・水路底に赤土が積もるといった問題が発生し、まち並みの魅力損失につながってしまった。そこで、今年度は自然保護・景観の魅力向上を目的として一部水路の泥さらいによる自然保護と西出家前部分のリュウノヒゲを均一植栽するという作業を行ったのである。その結果、西出家周辺は庭園整備も含め、橋立の魅力向上へ働きかけた。

(Ⅲ) 木村家の庭園提案・計画・整備

木村家の庭園はギャラリー化に伴い、整備が急がれている。そこで、今年度はデザインの提案・計画・整備までを進めることとなり、この庭園整備も西出家整備と同様に美大の鏗教授、美大生と共同で行った。庭園デザインを決定するにあたり、ギャラリーの展示と関連のある「哲学」と「柳」をテーマにすることとした。そして、整備は9月と11月の2回にわたり、敷地均し、池の制作、池の水源確保、敷石の配置等を行った。



図5 木村家庭園整備前



図6 木村家庭園整備後

【ソフト面】

(i) ホームページによる情報発信の改善

橋立地区は知名度が低いことやイメージ戦略不足が課題となっているように、昨年度までホームページ（以下、HP）が制作されていなかった。そこで、昨年度谷研究室により橋立の概要や魅力を伝える HP が作成された。しかし、検索にかかりにくい点や内容が不正確な点、十分でない写真量が改善点として挙げられた。そこで、以上の改善点に加え、木村家に関する情報の追加、活動内容ページの改善なども行われた。このようなことから、来訪客に対する十分な情報提供、知名度の向上が昨年度以上に改善された。

(ii) 木村家ギャラリー化に関する提案・計画・実施

木村家は生活感のあるギャラリーを目指し、和風家具による展示、住宅内に合った照明の設置、看板の提案などの活動を行った。活動を進めるにあたり、打ち合わせを重ね提案・計画・実施をしてきた。その結果、本年度は仮オープンができるまでとなった。



図 7 木村家ギャラリー



図 8 設置した照明

(iii) 土産物の提案

橋立の課題である核施設不足も原因となり、橋立には魅力的な土産物がなく、観光地としては販売場所も少ないという課題も抱えている。そこで、土産物の提案が現在進められている。橋立の魅力的な点は「海」や「北前船」などであり、これらを活かした土産物を今後提案し販売することを計画している。

5. 調査研究に基づく提言

今年度の橋立地区では、一部住民に整備などの活動に参加してもらったが、まだ積極的に参加できる仕組みが確立できていないので、これから改善していく必要がある。

6. 調査研究の自己評価

まず、ハード面ではシャレットを順調に進めたこともあり、早い時期に整備にとりかかることができた。西出家においては、地均しに整備時間を費やすことになったが、完了し計画した整備に着手することができた。しかし、庭園整備は来年度以降の整備計画も必要になってくる。川沿いはリュウノヒゲの植栽が終わったので、川底の泥さらいを来年度も継続して行っていく。木村家は整備に取りかかる時期が 9 月と遅めに始まったが、人手がいる柿の木の移動、池の下準備を終えることができ非常に進捗した。次にソフト面については、本年度大きく進んだのは木村家ギャラリー化である。内装の提案から始まり計画・実施と行ったが、設置する家具を町八家具に依頼したこともあり、本年度は家具の設置、照明の一部設置、資料のモックアップ作成と順調にギャラリー化に向けて進むことができた。また、加賀市東谷地区との合同 WS では住民、加賀市とともに土産物の提案も行ったので、来年度には販売に取りかかれるようにしていきたい。

加賀東谷地区のまちづくり活動 －住民との協働による整備－

学生団体名：金沢工業大学 谷研究室

参加学生：岩永幸子・枝吉拓郎・野尻彰夫・鷺田達也・赤野恵介・鳥越友香里

1. 調査研究成果要約

主要施設の魅力向上が目的である山野草ガーデン整備、来訪者や住民方の要望であるまち歩きマップ、地域資源を活用した商品開発について、全体の3～5割程度が完成されており、来年度中の完成と本格的販売を目指し現在も活動が続けられている。その他にも、東谷地区の統一ネームとロゴ考案や情報発信ツールとしてHPの活用があり、今は基盤を製作している段階である。

2. 調査研究の目的と内容

本研究室は活動を行う上で荒谷地区、今立地区、大土地区、杉水地区の4地区で形成される石川県加賀市山中温泉東谷地区での地域活性化を目指し、住民が自立的な活動を行うことのできる場の形成を最終的な目標としている。また、当地区では平成19年～20年の2年間に重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）選定に向けた調査が行われた。過疎化・観光資源不足などの課題がある中で、今年度は「地域資源を活かした魅力・知名度の向上」を活動方針とした。また、本活動は4年計画の3年目にあたる。東谷地区でまちづくり活動を行うにあたり、重伝建地区選定を視野に入れた活動として以下の活動を行った。

■まちづくりWS

東谷地区の現状把握や情報を共有することを目的としたもので、住民、行政、外部関係者が多数参加した。具体的な内容として、4集落をグループ別に各現地を視察し、その後意見をまとめ、発表を行った。活動により、住民方から様々な意見を聞くことができた。また、第三者からの意見を聞いて改めて地区の魅力をアピールしたいとの声があった。

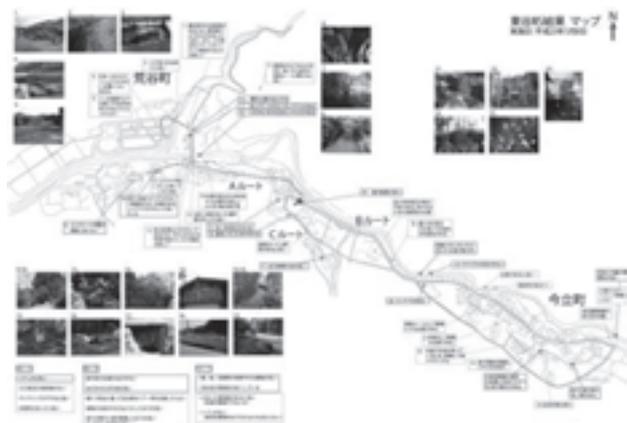


図1 【第一回成果物】



図2 【第二回成果物】

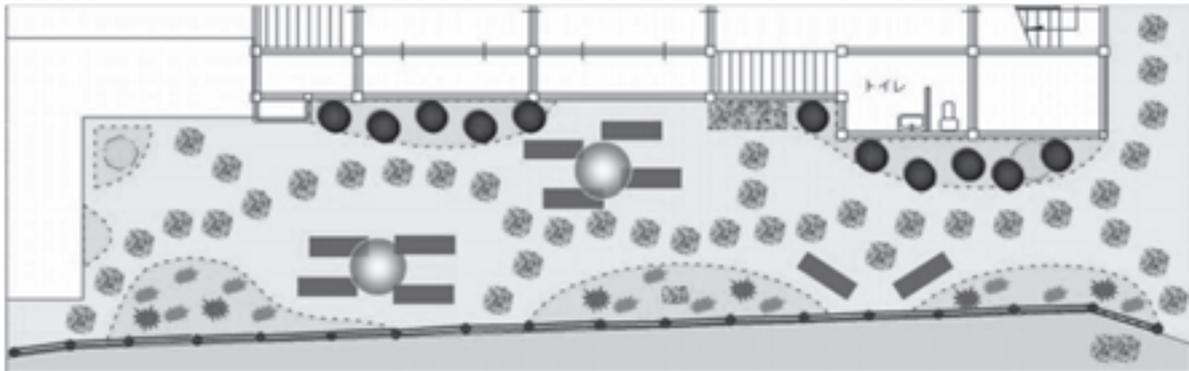
成果として、①住民方の予想よりも長所となる部分が多く存在したこと。

②問題点に関しては、長期的戦略が必要である。

以上のことが判明し、谷研究室では①の部分で活動方針と合った取り組みができると判断し、具体的な活動項目を挙げ活動を行った。

■山野草ガーデン整備

昨年度に山野草カフェ裏側のガーデン計画が行われ、その計画を再検討し整備を行った。



<目的と内容>

図3 ガーデン計画図

山野草カフェは本地区の主要施設のひとつであり、人が多く出入りするため施設全体の魅力向上が必要となる。昨年度は内部空間を一部変更したため、今回は外部空間の庭部分に着目し、ガーデン計画・整備を行った。再検討した計画では飛び石や安全性確保の柵を取り入れていたが、住民側との話し合いや現地の地面状況により、変更となった。崖側や建物側には川石で囲まれた花壇を作成し、中央にベンチとテーブルを配置する。天候が良い日はオープンカフェとして利用し、本地区の自然を体感してもらう。整備は石川工業高等専門学校 道地研究室（以下、道地研究室）にも協力して頂いて、住民と協働で行った。現時点で、5割程度すすんでおり、来年度の完成を目指している。

■ガイドマップ作成

以前から案内用マップが必要とされたことや、昨年11月下旬に重伝建に選定されたことにより、ガイドマップ作成を行った。

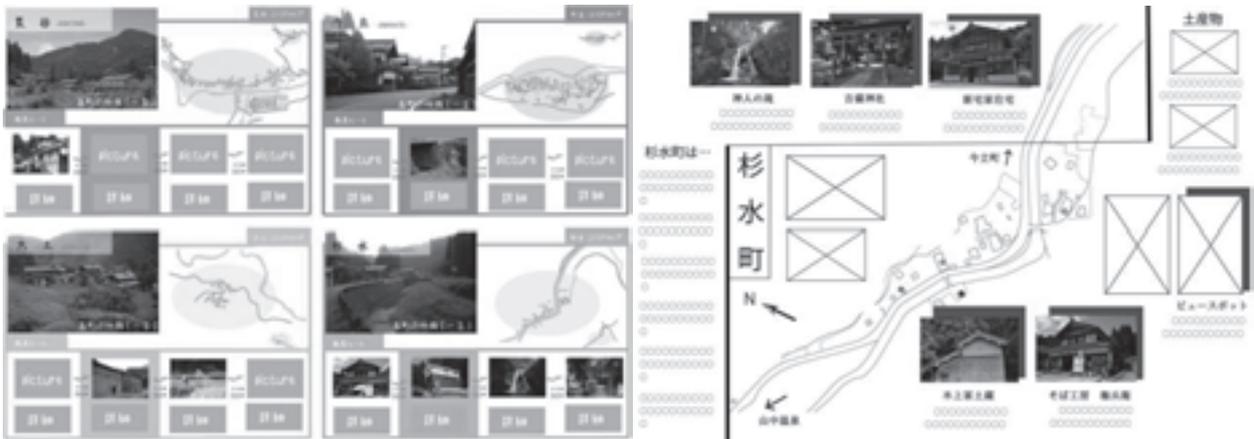


図4 マップ

<目的と内容>

重伝建選定に伴う来訪者の増加が予測されることや住民が説明付きで一緒に歩き回っていることから、今後の住民への負担が懸念されるため、マップを作成・配布し観光客自身のタイミングで各地区を回れることや住民方の負担を低減することができる。構成は、一枚のA3用紙で提案することを原点とし、様々な手法を考案している。広域マップや地区マップをはじめ、必要最低限の情報に絞りこんだ。また作成にあたり、道地研究室と共同作成し谷教授や道地准教授の指導のもと、今年度の完成を目指している。

3. 調査研究の成果

■山野草ガーデン整備

整備している際に住民方から「活気がある」「雰囲気がいい」などの声があがった。周辺の空間とも適合し、カフェのイメージが良くなった。ガーデンが完成され花壇やベンチなどが配置されれば、より一層カフェ全体のイメージが良くなり主要施設としての魅力向上が期待できる。

■ガイドマップ

住民方にサンプルを拝見してもらい、いくつかの改善点があるもののマップ自体の印象は良く、満足に近い評価をいただいた。来訪者に対して意見をもらい、さらに改善する部分があると思われるが、完成・配布に伴い利便性が良くなり、当初の目標を達成することができると感じられる。

■ミニ盆栽販売

野菜市の開催日に試作品販売を行った結果、認知度が低く初めて試作品を見る人が多い中で、予想よりも多く売ることができ、住民からの評価も良いものであった。この結果から来訪者も形が残る品を欲しがっていることが分かり、今後は量産化し1年を通しての販売で認知度を高める必要がある。

4. 研究調査に基づく提言

■山野草ガーデン

住民と協働で作業することで、その場で意見を聞くことができる。したがって、現場で確認を行いながら整備することで、住民側とのミスマッチを防ぐことができる。そのためにも学生による積極的な参加が必要だ。

■ガイドマップ

マップについて利便性をより高めるために毎年、更新する必要がある。したがって、利用者からの意見を聞き出し、改善点がないか検討する。また、道地研究室との共同作業で、より多くのアイデアが出されるため、そういった機会を設けることである。

■ミニ盆栽

量産化する上で、盆栽管理が発生する。植物に対する知識や管理能力が必要となるので谷教授をはじめとした指導者からの意見が今後も必要となる。また、植物の収集には季節ごとに現地を訪れることである。

5. 調査研究の自己評価

以上の調査研究を行って、住民方や行政側との綿密な打ち合わせが大切であると実感した。また、専門知識を持っておられる各専門家との交流により知識の幅が生まれ、それが、意外な場所でのアイデアとなって応用することができる。よって、様々な人との交流や学習意欲を持つことが、地域活性化の施策の一部となることがわかった。本地区がより一層の活性化を目指す上で、引き続き外部関係者の協力が必要であり、そこには新たな交流も必要だと言える。